

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月20日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①極めて高いレベルの文武両道のもと、高い学力、幅広い教養を身につけ、国際社会のリーダーとしての資質を培う教育課程を編成し、全職員で組織的に取り組み、実現させる。	①「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践に向けて組織的に授業改善を更に推進する。  ●主体性、組織力、リーダーシップを育成する。	①●担当学年・教科を超えて、組織的にICT機器の効果的な使用法を共有し、授業改善に生かす。定期試験や小テストにデジタル採点システムを活用する。  ●個での活動から集団での活動に昇華していく中で、新たな学びを構築する探究活動を推進する。 ●新しい時代における主体性やリーダーシップを養うための支援について職員の情報共有を密にし指導する。	①●教員間での授業参観を全員が行ったか。またICT機器やデジタル採点システムを効果的に活用できたか。  ●学校行事や生徒会活動を通して生徒が思考力・判断力・表現力等を発揮し、課題を解決するために主体的に行動できたか。  ●教職員間で支援について共有し実行できたか。	①●年間を通して互見授業が行われ、ロイロノートの研修会も2回実施した。1年の全教室にプロジェクターが常設され、ICT機器を活用した授業の効率化が図られた。デジタル採点システムの利用により教材研究に充てる時間が増えた。  ●学校行事、生徒会活動の運営について、コロナ禍以前の活動を生徒自ら主体的に調査し、懐古的に運営するのではなく、コロナ禍で得られた技術や運営方法を随所に取り入れながら、生徒が自ら切り拓く学校生活を支援することができた。	①●2、3年の教室にもプロジェクターの常設が望まれる。A3版対応のスキャナーが1台しかない。これらの予算が確保できるかが課題である。  ●感染症対策だけでなく、教育活動の安全確保や熱中症対策等の配慮事項について、職員間はもちろん、生徒にも周知徹底する必要がある。Google Chat や Teams 等を活用し、一定の成果は得られたが、更に組織に浸透させ、情報共有を徹底するため、継続して進めていく。	①●ICTやデジタル採点システムの活用にもますます組織的に取り組んでほしい。また、それらを推進することが授業や生徒の学びにどのような効果をもたらしたのかを検証しやすい評価方法を考えるとよい。  ●10月に実施した授業研究会は大変素晴らしかったので、そのことについて総合評価に記載するとよい。  ●特別活動等を通じて、次世代を担うリーダーの育成を組織的に推進してほしい。	①●プロジェクターの常設、ICT機器の活用、デジタル採点システムの導入などにより、時間が生み出された事は評価できる。更なる授業改善を進めるために、それらの効果の検証も必要である。  ●授業研究会には他校からの参加者もあり、活発な意見交換がなされた。多くの教科で行われることが期待される。  ●コロナ禍で得られた Google Chat や Teams 等のコミュニケーションツールは、学校行事における生徒の取組の進捗把握や情報共有に効果的であり、生徒が自ら学校生活を切り拓く場面を多く創出した。  ●職員間、生徒・職員間のコミュニケーション活性化のために、ツールの組織全体への浸透を進め、効果的に活用していくことが必要である。	①●他の教育予算とのバランスを取りつつ、ICT機器の整備を継続して進めていく。 ●ICTやデジタル採点システムの効果については生徒による授業アンケートの活用も検討する。  ●各特別活動の運営方法のマニュアル化と、指導方針に関する職員の認識合わせを進めることで課題等が見えたので、来年度も継続して行う。また、新しい取組を実施した今年度を基盤に、生徒間の引継ぎと教員間の情報共有をより迅速かつ正確に行うための意識改革を継続して行うよう努める。
2 生徒指導・支援	①次世代リーダーとして、世界に通用する人間としての高い倫理観や、心豊かで他者を思いやることのできる人間性、自律的・主体的な態度を育成する。  ②個別の生徒の課題について、迅速にまた計画的に組織的に対応する。	①人としての行動の在り方を自分で判断して実践できるよう、全職員で一致した生徒指導・支援を行う。  ②個別の生徒の課題を把握、共有化して支援し、課題解決を図る。	①自身を取り巻くさまざまな事柄に関心を持つことの重要性や、授業規律や公共のマナー遵守について、授業、HR、集会等で継続して伝え、指導する。  ②生徒の課題を把握するため、ケース会議やスクールカウンセラーを活用して迅速に対応する。	①将来のリーダーとしてふさわしい自律的な態度やマナーを身に付けさせることができたか。  ②報告・連絡・相談を円滑に行い、計画的に課題解決に向けて取り組むことができたか。迅速な情報共有等のための体制整備を推進したか。	①1人ひとりの行動では、規範意識をもつて公共のマナーやエチケットも守って生活している生徒が多い。しかし、集団となったときに周囲への配慮が不十分な場面もあり、引き続き指導・支援が必要である。  ②悩みや不安を持つ生徒の早めの把握に努め、情報共有を積極的に行った。担当者の連絡会を定期的に行い、必要に応じてケース会議等を開き、生徒の支援につなげた。	①まずは、高校生としての基本的な生活習慣と、服装身だしなみから立ち居振る舞いを自ら見直し、自分で正しく考えて選択できるような、引き続き呼びかけを行っていく。  ②学校生活をはじめ家庭においても、悩みや不安を抱えている生徒の数は相当のものがあ、SCやSSWとの連携を密にし、支援体制を充実させる必要がある。	①●生徒が「思いやり」を正しくとらえることが大切である。人権尊重の理念を「人権共存の考え方」として理解し、多様な他者と協働できるよう指導してほしい。 ●忙しい毎日であっても自身を取り巻く環境に目を向ける時間の確保について、生徒への指導・支援をお願いしたい。  ②ケース会議の機動的な運営やSC、SSWなど外部専門人材の積極的な活用を進め、自ら必要な支援を求めることのできる生徒を育成してほしい。	①●生徒それぞれが持つ倫理観や規範意識については、相応なものに身に付けているが、他者への理解と尊重については、時と場に応じては不足している点があり、指導や支援を通じて考えさせる必要がある。 ●学習や部活動・行事などの普段の活動においても、人としての生き方が芯にあることを実感させることが必要である。  ②生徒の持つ様々な課題を早めに把握し、共有する仕組みが構築されてきている。その取組を更に充実させながら、生徒が自ら必要な支援などを求めることにつなげていきたい。	①●基本的な生活習慣の確立と基本的な人権尊重の考え方を、授業・HR・集会などはもちろん、登下校時の立ち居振る舞いなどにも届くように呼び掛ける。  ●生徒会活動やHR活動の中で、マナーや人としての生き方について、生徒同士の学び合いの機会を提供する。  ②職員間だけでなく外部専門人材との連携を図り、どの生徒も実りある学校生活を送ることができるよう、生徒に寄り添う支援を実践する。

3	進路指導・支援	<p>①進路支援グループ、学年、部活動顧問等で連携し、3年間を見通しての計画的かつ最後まであきらめさせない進路指導を徹底する。</p> <p>②世界に目を向け、「最も困難な道に挑戦する」高い志を育成する取組を推進する。</p>	<p>① 生徒一人ひとりの状況を把握し、生徒が主体的に価値ある進路実現を目指して、そのために全職員が連携して進路支援を行う。</p> <p>② 「Always do what you are afraid to do!」というスクールモットーに沿った進路指導・支援を実施し、生徒・保護者への的確な情報は発信を行う。</p>	<p>① ●生徒の情報を教員間で共有し、日々の声掛けや、進路説明会、進路通信などを活用して、3年間を見通した進路支援を行う。</p> <p>●実力テストの問題や結果を分析して、教員間で共有し、指導方針を明確にした上で生徒に発信し、基礎力を重視した授業を展開する。</p> <p>② 入学から受験期まで、全職員が連携して「難関大学進学をあきらめない指導」を徹底し、そのための生徒・保護者への情報発信を工夫する。</p>	<p>① ●生徒アンケート等の分析を行い、職員間で共有して、組織的かつ効果的な支援が実践できたか。</p> <p>●進路支援グループを中心に実力テストの結果を分析し、基礎力の定着を図ることができたか。</p> <p>② 集会、HR、進路通信等を通じて必要な情報を発信し、自分の進路について主体的に考える態度を育成することができたか。</p>	<p>① ●実力テストの問題及び結果、生徒アンケートの結果等のデータを分析して共有し、各学年や担任における指導等に活用した。また、授業や講習を通じて基礎基本の大切さを説き、基礎力の定着を図った。</p> <p>② ●卒業生の3年間のデータや、過去のデータを整理・分析し、進路情報共有会において共有した。その上で、進路通信の発行、進路説明会及び講演会の計画及び実行等を通じて、適切な情報発信に努めた。</p>	<p>① ●来年度、新学習指導要領実施後初めての大学入試となること踏まえ、進路支援の在り方を継続的に検討する。</p> <p>●社会や生徒の変化に応じた「基礎力」を理解するとともに、その育成を念頭に置いた湘南高校の在り方を大切にした進路支援を行う。</p> <p>② ●組織的な情報収集及び情報交換を行う。社会の動向を踏まえ、生徒が広い視野で主体的に将来を考えることができるような情報発信を通じた進路支援に努める。</p>	<p>① ●「夏季校外特別講座」は自分の進路について主体的に考えるための貴重な機会になっている。参加人数が増えるよう更に発展させてほしい。</p> <p>●基礎基本の重要性を伝えることは大変重要である。</p> <p>② ●「高い目標＝難関大学進学」とは限らない時代となっている。生徒が自分に合った進路選択ができるような情報収集を行い、支援していただきたい。</p> <p>●保護者への情報発信があまりされていないように感じるので工夫が必要ではないか。</p>	<p>① ●基礎力の重要性については、生徒・職員間で共有することができた。新学習指導要領実施後の大学入試を意識し、授業や主体的な学習の中で、いかに基礎力を育むか、継続的に研究していく必要がある。</p> <p>② ●生徒が主体的に進路を決定し実現するための情報提供及び生徒の状況を把握し寄り添う支援を行った。生徒が自信を持って高い目標に向かい、その実現のために自ら情報収集を行う姿勢を育みたい。</p> <p>●保護者懇談会、三者面談、進路通信などを通じて、保護者に向けた情報発信を行った。保護者の協力を得るために情報提供を続けるとともに、情報の質を高めたい。</p>	<p>① ●引き続き進路説明会、進路通信などを通じて、基礎力の重要性に触れていくとともに、基礎力養成のための情報提供を行う。キャリア教育の視点から基礎力について考え、組織的に授業改善を図っていくための働きかけを行う。</p> <p>② ●外部講師を招いての進路講演会、夏季校外特別講座などの機会を通じて、生徒が自分の将来をイメージできるような仕掛けを生み出すとともに、進路説明会や進路通信などを通じて、生徒が主体的に進路実現に向かえるような情報の提供を生徒、保護者に継続的に行う。</p>
4	地域等との協働	<p>○地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりをめざす。</p>	<p>① 学校紹介の機会を拡大させ、地域からの本校教育活動についての理解を得る。</p>	<p>① 説明会等における参加人数の制限を可能な限り緩和させる。また、ホームページを通じて教育活動の内容を地域に伝える。</p>	<p>① 参加人数を増やすことができたか。また、ホームページの更新頻度、内容を充実させることができたか。</p>	<p>① 学校説明会を、参加人数等の制限を昨年度より緩和して実施できた。また、学校行事実施後、速やかにホームページを更新し、教育活動の内容を発信した。</p>	<p>① 説明会参加者を中学3年生に限った。学年の制限をさらに緩和し、広く希望者を受け入れるよう検討が必要である。部活動の状況についても、ホームページでより多くの情報の発信が求められる。</p>	<p>① 感染症対策を講じながら、学校説明会の参加者を増やす工夫が見られた。小学生対象のイベントは、小学生段階から公立高校に進学する意識を醸成し、数年後に成果が出ると思われる。</p>	<p>① 予定していた学校説明会、小学生フェスティバルの実施やホームページの更新を通して本校の取り組みを紹介できた。説明会等は更に多くの希望者の参加の実現が必要である。また、地域清掃は近隣への意識を高める機会となった。</p>	<p>① 学校説明会については、参加学年の制限の緩和を検討する。地域への貢献については、部活動等を通して地域のイベント等への参加などを積極的に進める。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①教育公務員としての高い倫理観と同僚性を保持し、学校目標達成に向けて堅固に協力するとともに、事故・不祥事を起こさない職場環境の形成に向けて、職員一人ひとりが意識して行動する。</p> <p>②働き方改革を推進するために教員の意識改革を図る。</p>	<p>① 職員一人ひとりが当事者意識をもって、事故・不祥事防止件数ゼロ継続に努める。そのためにも、ゆとりを持った職場環境形成に努める。</p> <p>② 一人ひとりが、自覚的にワークライフバランスの充実に努める。</p>	<p>① 報告・連絡・相談を円滑に行い、事故・不祥事防止に努め、共通認識と協力のもと職務の達成に取り組む。</p> <p>② ●打合せや会議文書作成の効率化を図り効果的な情報共有の定着に努める。</p> <p>●職場アンケートを実施し、意識の改革や状況や業務の実態を共有する。</p>	<p>① 事故・不祥事件数ゼロを達成したか。</p> <p>② ●業務の効率化の結果、自己研鑽や教材研究に向けたゆとりが得られたか。</p> <p>●一人ひとりが、ワークライフバランス充実の実感をえられたか。</p>	<p>① 報告・連絡・相談を意識的、機能的に行い、事故防止に努めた結果、事故・不祥事件数ゼロを継続達成した。</p> <p>② ●業務の効率化と意識の共有に努め、自己研鑽や教材研究に向けたゆとり確保に取り組んだ。</p> <p>●職場アンケートを実施し、一人ひとりの意識啓発に努め、状況や業務の実態を共有した。</p>	<p>① 引き続き事故防止に努める。</p> <p>②職場アンケートから確認された職員の労働環境・衛生環境上改善が必要とされる問題について、意識の共有や事態の改善に取り組むことにより、自己研鑽や教材研究、ワークライフバランスの充実の実現に向けて取り組んでいく。</p>	<p>① ●事故・不祥事ゼロの継続達成を高く評価する。</p> <p>●4年間の目標にある「同僚性の保持」が事故・不祥事ゼロの達成につながっていると推察する。そうであれば、「同僚性保持」の要因を把握し、それを継続するためになすべきことを考えることが重要である。</p> <p>② ●働き方改革のもと、教職員の労働環境の更なる改善に努められたい。</p> <p>●総労働時間の抑制や教員以外の人材活用等により、生徒一人ひとりに気を配る時間を創出することが働き方改革の目的であることを再確認し、推進してほしい。</p>	<p>① 県下での事故・不祥事報告を共有する中、報告・連絡・相談を意識的、機能的に行い、事故防止に努めた結果、事故・不祥事件数ゼロを継続達成した。</p> <p>② ●業務の効率化と意識の共有に努め、自己研鑽や教材研究に向けたゆとり確保に取り組んだ。業務内容や量の均一化、制度化された在宅勤務の実現などが課題である。</p> <p>●職場アンケートを実施し、一人ひとりの意識啓発に努め、状況や業務の実態を共有した。子育て世代や女性職員、常勤・非常勤等々それぞれの抱える職場環境の課題が認識された。</p>	<p>① ゆとりある職場環境が事故防止の原点であるという自覚の下、業務改善・組織改善・環境整備に取り組み、引き続き事故防止に努める。</p> <p>②職場アンケートから確認された職員の労働環境・衛生環境上改善が必要とされる問題について、意識の共有や事態の改善に取り組むことにより、自己研鑽や教材研究・授業改善、ワークライフバランスの実現に向けて取り組んでいく。</p>

